

平成19年10月
ネットワーク全労生

全労生議長就任に当たって

全労生・議長
(UIゼンセン同盟・会長) 落合清四

「生産性の精神」の共有こそ運動の出発点

秋冷の候。連日、諸活動に邁進されていることに対し敬意を表します。

この度、中島議長退任に伴って、全労生中央委員会にて議長に選任いただきました。微力ではありますが、各副議長、事務局長、各委員のバックアップの下に一所懸命に努める所存なればよろしくお願い申し上げます。

生産性運動は一昨年、五十周年を機に、二十一世紀を創造していく、四つの生産性、すなわち、知識生産性、社会生産性、環境・資源生産性、総合生産性を重要な力であると規定し、そのためにも引き続き生産性運動三原則を再認識し、深化させようと呼びかけられています。我々全労生は、この基本的な考えを労働運動の実践の中に取り入れ、労働の尊厳を中心においた生産性運動を展開していかなければなりません。

しかし、グローバル化と市場主義の波は、今や労働の尊厳を脅かし、労働を商品化する動きを増幅させています。生産性運動は、その背景にある根本的な理念である、今日よりは明日、今年よりは来年、と言った人間だけが持つ「生産性の精神」が前提にされなければ意義を見出すことはできません。特に昨今の市場原理の横行によって、苦痛と圧迫を伴う、誤った生産性運動に陥ることがないように、絶えず「生産性の精神」「労働の尊厳」を政労使が再確認し、共有することが重要と考えます。

今、労働運動のキーワードは「格差社会」と「ワーク・ライフ、バランス」です。この対立する課題を克服するためにも真の生産性運動の展開は必要不可欠の運動であると思います。我々、全労生は、その役割の重要性を自覚し、着実に運動の輪を広げていくことが使命と念じつつ、皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。